



手を携えて光輝く地域づくりに挑戦

益田市 191 交流協議会「輝」

1 191 交流協議会「輝」の概要

益田市東南部を走る国道191号沿線に隣接する地域の公民館「豊川・真砂・東仙道・都茂・二川・道川」の六公民館「人口4,000人・世帯数1,700世帯・高齢化率37.4%」は少子高齢化に伴う人口減少が進む中、様々な面において活力が失われつつあり、単独公民館での活動に限界が生じていることに危惧を感じていた。地域の有り余っている資源を活用しお互いの取り組みを尊重しながら助け合い・連携・協力体制を確立することで大きなパワーになり地域づくりの活力向上になることを願いつつ事業に取り組んでいる。

2 事業の概要

(1) はじめに

① 実証事業名 191 交流協議会「輝」地域づくり事業

② 実証事業のテーマ

- 「みどり輝く 里山の心をつなぐ いろは街道
仲間とつくろう明るい未来」

③ 実証事業のねらい

ア 短期的な展望

「輝」の目的や取り組みに対する啓発活動、研修会、地域間交流事業等を通じて住民を巻き込むことにより交流の輪を広げ刺激し合いながら人材の発掘と各地域における事業の活性化を図る。

イ 中期的な展望

研修会や先進地視察事業を通して輝の地域間交流事業から地域連携事業への拡大を図るとともにそこに関わる住民の輪をさらに広げることにより地域リーダーを養成する。

ウ 長期的な展望

公民館主体の取り組みから地域住民のアイデアによる自主運営を目指す。

(2) 具体的な取り組み

① 住民への啓発活動

ア 輝 設立の周知をチラシを作成し地域内全戸に配布した。

イ 住民のアイデアを生かしたロゴマークを募集した。21点の応募があり
厳重審査のうえ決定。活動用ジャンバーのデザインに採用している。

ウ 研修会等に参加された方の交流研修会を開催した。



② 先進地視察事業

輝の組織に相応しい先進地を視察し、具体的な実践を学ぶことで住民の視野を広げるとともに、客観的に地域を見直し活動意欲を喚起することを目的に11月28～29日の二日間視察研修を実施した。

視察先：兵庫県加西市 「原始人会」
岡山県笠岡市 「かさおか島づくり海社」

参加者：38名



③ 地域間交流事業（都市交流事業）

少子高齢化による人口減少により地域の担い手不足が深刻になり、豊富な資源活用や、コミュニティーの存続が危惧されている。一方都市部の人の中には素晴らしい技術や知識を持っておられる方、都市部での生活に疑問を感じておられる方も多くなってきているのではないかと。地方の豊かな自然や暖かく人情味溢れる人々との出会い、触れ合いに大きな魅力を感じているのではないかと。中山間地と都市部という異なる地域の人や物が行き交い交流することによってお互いが刺激を受け今までにない発想や仕組み創りへのヒントが生まれてくる。

ア 事業概要

- 自然薯収穫 地域内で自然薯栽培を手掛けている企業農園で実施。
- 新そば打ち体験 輝 会員のそば打ち同好会による指導により実施。
道川：源流そば同好会
二川：双川そばの会
真砂：まさごそば処
- 豆腐作り体験 真砂地区の豆腐工場を講師にザル豆腐作りを実施。
- 交流団体 広島益田会

○ 参加人員	広島益田会	大人13人	子ども	4人
	輝会員		16人	
	一般参加		31人	
	合計		64人	



④ 研修会参加

多くの人との交流や他地域の活動を学ぶことで財産となり地域へ帰って元気な故郷づくりに活用することが可能となる。昨年より「人づくり・地域づくりフォーラム in 山口」に参加。今回（第五回）には47名が参加した。

⑤ 研修会開催

地域の外へ出かける機会の少ない住民に少しでも多くのものを学んでほしい。そして学んだことの検証をすることでさらにランクアップした地域に育っていくことを目的に「輝」の顧問をお願いしている「若松進一」先生をお招きして「地域づくりと資源活用」をテーマに研修会および意見交換会を39名参加のもと実施した。先生からの素晴らしいアドバイスと今年度の事業に参加された方々との検証を兼ねた意見交換があり意義ある研修会であった。

（参加者：事業参加者・公民館運営委員・自治会長・一般会員）

3 事業の成果と課題

① 住民への啓発活動

「輝」設立の報告と協力のお願ひ、間をおかずに組織の象徴でもある「ロゴマーク」の募集を実施（21作品の応募あり）した。地域の皆さんが「輝」に対し六つの地域の元気づくりへの期待感が強く感じられた。実施した事業への参加者の数を見てもそのことが伺える。今後はより多くの住民の方々に参加していただけるための啓発活動と価値ある事業の推進を図る。

② 先進地視察事業

事業への地域住民の関わり方・資源の活用術・地域リーダーの育成など自分たちの地域では遅れがちな問題課題について多くを学んだ。そのことが後の意見交換会において、資源の価値観の見直し・発想の転換・住民の取り込みと関わりなどについて活発な意見交換ができたことが大きな収穫であった。この成果を地域の基盤整備に活用するべき方策を多くの人を取り込んで進めていくことが重要となる。

③ 地域間交流事業（都市交流事業）

交流先の「広島益田会」の方のお礼文の中に「そば打ち・豆腐作り」体験を

通して「懐かしい味や心づくしのもてなしがあった。子どもの頃の風景が浮かんできた。このことを後世に残さなくてはならない。そのためには故郷を出ている我々がお手伝いをさせていただきたい」とコメントをいただきました。地域を元気にしたいと思っている我々にとってこれほど力強い応援メッセージはありません。今後はより多くの人々に関わっていただきながらお互いが持っている技術や資源の有効活用を図りながら相互訪問交流ができる環境作りを推進していく。

④ 研修会への参加

「人づくり・地域づくりフォーラム in 山口」に参加した。今年で二回目となる。全国で活躍されておられる地域の素晴らしい実践事例を学ぶことや・多くの方と交流することで自分たちでは考えられなかった活動や自分たちでは解決できなかった問題課題への取り組みなど多くの事を学んで帰られたことと思う。この学びの数々を地域づくりに生かされていただけると確信している。この様な学びの場・交流の場への参加は地域の人たちにとっても、地域にとっても大きな財産になるので積極的に取り組んで行く。

⑤ 研修会の開催

若松先生を招いての研修会を開催した。今年度の事業参加の検証も合わせて実施した。講師の資源活用事例や活用の方法などの講演。自分たちが先進地視察などで学んだ事とを合わせての意見交換もあり地域の人たちにとっては一皮むけた有意義な研修会であった。有り余る地域資源の活用による地域ブランドの開発などは今後の「人づくり・地域づくり」には欠かせないものと思うので最重要課題と位置づけて取り組む。

4 今後の方向性

地域づくりの第一には、住民同士が地域の現状を認識し、目的意識の共有を図り、「参加ではなく実行」の考えを持ちながらお互いが協働することにより多くの問題課題の解決に向けて進んで行けると思う。その地域の力により将来を担う子どもたちに「ふるさと教育」を学校と地域が力を合わせ推進していくことで「いつまでも自分の生まれ育った故郷」を愛し続けてくれる心を持ってくれると思う。そのことが故郷を離れていてもいつの日にか故郷に帰ってきて地域づくりに貢献してくれると確信する。そのための環境作りを推進する。構成する六館は月一回の定例会議を通して常に連携協力し合いお互いの地域の現状を的確に把握し、夢を語り合い取り組みの方向性を示していく。

そして地域住民が研修や交流の中からお互いの思いを共有し「研修・実践・検証」のサイクルを繰り返すことにより人々は多くのものを獲得し成長を遂げることが可能となる。そして地域の財産として成長することにより後継者も育ち、元気で活力ある地域の存続と「自主運営」の目標にたどり着き「輝」が増してくる。この目標達成のために地域住民全員が手を携えて前を向いて進んで行く。